

町立保育園として存続する園の選定について

町立保育園 3 園の内、2 園を同時期に民営化していくにあたり、町立保育園として、存続する保育園を選定します。

■存続する町立保育園のあり方

1 面積が広い園

民営化する園の職員（会計年度任用職員を除く）を存続する町立保育園に集約し、これまで以上に保育の充実を図るためには、多様な保育サービスの拡充が必要になります。特別保育等の保育サービスの拡充を図るためには、保育をするためのスペースが必要になりますので、園舎面積が大きく、増築工事が可能な園庭面積の大きい園を選定いたします。

2 利用定員が多い園

町立保育園に通う利用者の中には、町立保育園だからという理由で選んでいる方もいます。また、特別の支援を必要とする障害児などの保育を積極的に推進することで、町立保育園の希望者が増加することも考えられます。

町立保育園として比較的小さな集団より、大きな集団で社会性や協同性を身につける保育をするため、定員が多い園を選定いたします。

3 駐車場の確保

園のイベント時に保護者用の駐車場が必要になるため、町有地でより多くの車両が収容できる園を選定いたします。

4 町立保育園比較表

項目	北保育園	南保育園	西保育園
利用定員	150名	120名	110名
建設年度	平成元年度	昭和62年度	平成3年度
耐用年数の到来年度	令和11年度	令和29年度	令和13年度
構造種別	木造	RC（鉄筋コンクリート）造	木造
園舎面積	1073.8㎡	883.2㎡	692.3㎡
園庭面積	5016.8㎡	2715.0㎡	3696.7㎡
駐車場	町有地：37台	町有地：11台 借用地：39台	町有地：20台 借用地：24台
民営化により 生み出される財源	約4,548万円	約4,581万円	約4,657万円

5 町立保育園の必要保育士数

(単位：人)

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	3:1		5:1		6:1		15:1		30:1		30:1		年間入園予定	職員
	年間入園予定	職員												
北保育園	10	4	25	5	25	5	30	2	30	2	30	2	150	20
南保育園	10	4	20	4	20	4	20	2	25	2	25	2	120	18
西保育園	10	4	15	3	15	3	20	2	25	2	25	2	110	16

6 町立保育園の職員数

(単位：人)

	正規保育士	会計年度任用職員	①合計	②会計年度任用職員	③会計年度任用職員	①+②+③ 合計	正規調理手	会計年度任用職員	会計年度任用職員	会計年度任用職員	公仕	総合計
		フルタイム有資格者		パート5H有資格者	パート5H無資格者			フルタイム調理	パート5H調理	パート3H調理		
北保育園	9	11	20	2	4	26	1	1	3	2	1	34
南保育園	8	12	20	4	3	27	1	1	3	2	1	35
西保育園	8	10	18	4	2	24	1	1	3	2	1	32
合計	25	33	58	10	9	77	3	3	9	6	3	101

■選定する保育園

存続する園に求められるものは、特別の支援を必要とする障害児などの保育を推進することにより、今後高まるであろう保育需要に対応できる利用定員と特別保育を実施するために保育環境の更なる充実を図ることができる施設規模です。

公・私立保育園の中で、最も多い利用定員であり、最も大きな施設規模を有しているのが北保育園であり、職員（会計年度任用職員を除く）を北保育園に集約した場合でも、保育士数は充足します。

よって、北保育園を存続する町立保育園として選定いたします。